

武久源造 ピアノの発見 with 宮崎貴子

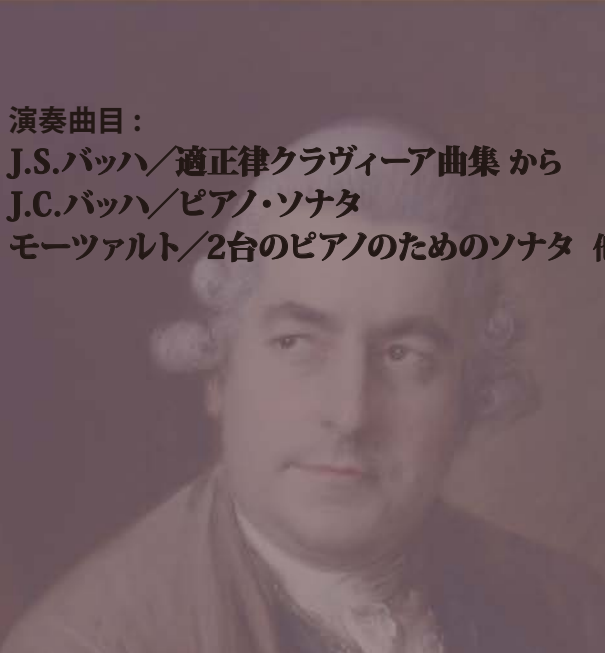
バッハのピアノ & モーツァルトのピアノ

演奏曲目：

J.S.バッハ／適正律クラヴィーア曲集 から

J.C.バッハ／ピアノ・ソナタ

モーツァルト／2台のピアノのためのソナタ 他



当日使用楽器：


ゴットフリート・シルバーマン 1747年(復元製作: 深町研太)

アントン・ヴァルター 1800年(復元製作: コーバルト兄弟)


前売券：一般 ¥3,000 小学生～大学生 ¥1,500

当日券は各¥500増し。 ※未就学児童の入場はご遠慮ください。

チケット販売所：マルイレコード tel: 089-945-0132 マツヤマ楽器 tel: 089-933-4148

ファミリーマート (Famiポートのチケット  から「探して買う」でコンサート検索)

 **イープラス** (ネットで予約し、配達やコンビニ受け取りの他、スマートフォン内に保管する電子チケット  も可能)

お問い合わせ：  『**そまびと 杣人**』バロック室内アンサンブル(宮武) tel: 050-3432-1443 e-mail: rmmsm-concerts@memoad.jp



2017年7月17日(月・祝)

午後3時30分開演(午後3時開場)

ひめぎんホール

愛媛県県民文化会館 1階 多目的室



武久 源造 たけひさ げんぞう <http://www.genzoh.jp/>

1957年 愛媛県松山市生まれ。1984年東京藝術大学大学院音楽研究科修了。

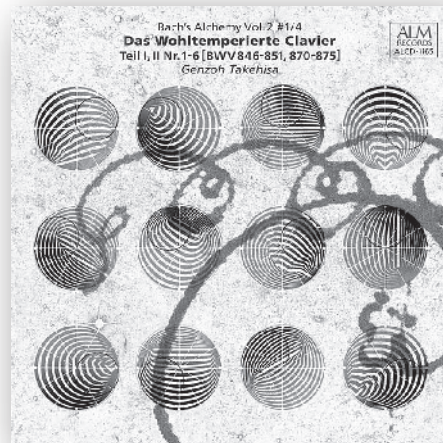
チェンバロ、ピアノ、オルガンを中心に各種鍵盤楽器を駆使して中世から現代まで幅広いジャンルにわたり、様々なレパートリーを持つ。特にブクステフーデ、バッハなどのドイツ鍵盤作品では、その独特で的確な解釈に内外から支持が寄せられている。また、作曲、編曲作品を発表し好評を得ている。音楽的解釈とともに、楽器製作の過程についても造詣が深く、楽器の構造的特色を最大限に引き出す演奏が、楽器製作者たちからも高く評価されている。1991年「国際チェンバロ製作家コンテスト」(アメリカ・アトランタ)、また1997年(第7回)および2001年(第11回)「国際古楽コンクール〈山梨〉」、ほか多数のコンクールに審査員として招かれる。

ソロでの活動とともに、2000年に器楽・声楽アンサンブル「コンヴェルスム・ムジクム」を結成し、指揮・編曲活動にも力を注ぎ、常に新しく、また充実した音楽を追求し続けている。2002年から毎年、韓国からの招請による「コンヴェルスム・ムジクム韓国公演」を行い、両国の音楽文化の交流に大きな役割を果たした。

1991年よりプロデュースも含め40作品近くのCDを主にALM RECORDSよりリリース。中でも「鍵盤音楽の領域」(Vol. 1～9)、チェンバロによる「ゴルトベルク変奏曲」、「J.S. バッハ オルガン作品集 Vol.1」、オルガン作品集「最愛のイエスよ」、ジルバーマン・ピアノによる「J.S. バッハ パルティータ [全曲]」、16フィート弦付チェンバロによる「ゴルトベルク変奏曲」、「バッハの錬金術 Vol.1 ヴィオラ・ダ・ガンバと鍵盤楽器のためのソナタ全曲/二つのトッカータ」ほか多数の作品が、「レコード芸術」誌の特選盤となる快挙を成し遂げている。

2002年、著書『新しい人は新しい音楽をする』(アルク出版企画)を出版。2005年より鍵盤楽器の新領域とも言えるシンフォニーのピアノ連弾版に取り組み多方面から注目を集めている。2006年、NHK ラジオ第1「ときめきカルチャー」コーナーに年間を通して出演。

1998～2010年3月フェリス女学院大学音楽学部及び同大学院講師。2012年、2013年、東京で上演されたラモアのオペラ『プラテ』、『レ・パラダン』にて音楽監督を務めた。また、ここ数年、ドイツ、リトアニア、アイスランド等の各国で、オルガン、チェンバロなどを駆使して、即興演奏を含む多彩なレパートリーによってコンサートを行い、注目を集めている。



バッハの錬金術 Vol. 2 #1/4

適正律クラヴィア曲集第1集・第2集 第1番～第6番

ALM RECORDS コジマ録音 ALCD-1165 税抜価格2,800円

「平均律」の名で呼ばれるこの作品を「適正律」と訳し、選暦を迎える武久が満を持しての全曲録音を始動。ペダル付チェンバロとジルバーマン・ピアノを自在に奏しバッハの真意に迫る。《適正律》とバッハ演奏に対する、長年培ってきた考察の詳述とともに、新たな地平を開く画期的大作!

宮崎 貴子 みやざき たかこ <http://takakomiyazaki.com/>

東京音楽大学ピアノ演奏家コースおよび同大学大学院を経て、ドイツ・ハノファー音楽演劇メディア大学ピアノ科、同大学古楽器科卒業。同大学修士課程フォルテピアノ科修了。在学中、同大学オペラ科にて伴奏助手を務める。これまでにピアノを故・神野明、藤原亜美、播本枝未子、石井克典、倉沢仁子、ゲリット・ツィッターバルトの各氏に、フォルテピアノをG.ツィッターバルト、ツヴィ・メニカー、チェンバロをZ.メニカー、リート伴奏法をヤン・フィリップ・シュルツェの各氏に師事。

2013年シューベルト国際コンクールリートデュオ部門優勝(ドルトムント・ドイツ)。ドイツ各地にてリート伴奏者、フォルテピアノ奏者、チェンバロ奏者として活躍。2014年帰国。2014年、2015年、2016年のフォルテピアノリサイタルはいずれも誌上にて高い評価を得る。2015年6月トッパンホールランチャタイムコンサート出演。その他ヤマハ銀座サロンでのフォルテピアノレクチャーコンサートシリーズ、武久源造氏との共演も多数行う。

フォルテピアノ、リート伴奏、女性作曲家作品を軸に多彩な活動を展開しており、その日本人離れした豊かな色彩感、躍動感溢れるダイナミックな演奏と楽曲に対する深い洞察力は、国内外の誌上・紙上にて高い評価を得ている。

またピティナピアノコンペティション、日本バッハコンクール等審査員もつとめ、後進の指導にもあたる。ピティナWebサイト「鍵盤楽器事典」に執筆。ピアノ音楽誌「ショパン」にて「聴いてみませんか? 弾いてみませんか? 女性作曲家作品あれこれ」連載中。

全日本ピアノ指導者協会正会員。女性と音楽研究フォーラム正会員。